

一橋大学、神戸大学の同窓会による知的交流会

「水霜談話会」

一橋大学と神戸大学のOBで構成される水霜談話会は、発足して78年の歴史を持つ由緒ある交流団体だ。

戦中、戦後の混乱期に中断した以外は、毎月1回例会を開催、この3月で562回を数える。

その目的は「人間修練」。政治・経済のみならず、各界の著名人の講演を聞き、そして、意見交換の場として、一橋大学、神戸大学出身者の人材育成に多大な貢献をしてきた。

今後は大阪市立大学同窓会のメンバーにも働きかけ

三商大交流の場として、さらなる発展を目指し、日本の国づくりを支えていく。

発足

水霜談話会は1934年3月、旧東京高等商業学校Ⅱ現一橋大学『如水会』と旧神戸高等商業学校Ⅱ現神戸大学の経済学部経営学部・法学部の同窓会である『凌霄会』の会員有志で結成された。会は、定例講演会を開催し、日本の政財界のみならず、芸術・文化・スポーツ界など、あらゆるジャンルの第一線で活躍する人物の講演を聞き、その後、テーマに即した意見交換、親睦会などを行っている。

発足の前年、1933年秋、如水会館内で会員が会の設立について話している件が、1992年に発行された水霜談話会の沿革を綴った冊子『水霜談話会のあゆみ』

に詳述されている。如水会、凌霄会の会員有志がともに人物形成のための勉強会の必要性に共鳴し、毎月1回、各界著名人の講演会を開くことになった。

「如水会館でときどき会合しているうちに、いつとはなしに両同窓会員の成人教育、殊に視野の広さ、心の広さへの教養の必要、勉強会の設立という話に煮詰って来た。丁度井上君（井上貴典・神戸大正4年、一橋専攻部同7年卒）が離職していたので最も熱心になり、両同窓会員の誰彼に話を持ちかけた」ことがきっかけとなった。

凌霄会ではすでに毎火曜日に勉強会（火曜会）が開かれていたが、高等商業学校、神戸高等商業学校両校で教鞭を執っていた津村秀松教授（映画評論家津村秀夫、詩人津村信夫の父、俳優の津村鷹志は秀夫の子



2012年1月には一橋大学・山内進学長の講演会が開催された。

が水霜談話会の主旨に共鳴し、火曜会の重要メンバーの大半を同会に入会させた。

設立の幹部たちは、「会の永続を期するためには、真面目な優秀な会員の選択獲得が重要である」（『水霜談話会のあゆみ』より）と考え、そのために一橋の長老教授陣を名誉会員として迎え入れる。津村のほか、佐野善作（学長）、田崎慎治（学長）、上田貞次郎、堀光亀など、錚々たる教授陣が名を連ねている。さらに『水霜談話会のあゆみ』からの引用を続ける。

「講師の講演、名誉会員の意見発表、会員の熱心な質問で会には時に白熱した空気につつまれることがあって、価値の高い講演会になった。会員の熱情のある質問のため講演者が困ることもあり、その熱気がうずまいていたために講演が二時間半以上に及ぶ

【過去の講師・抜粋】

※肩書は、すべて当時のものです。敬称略。

経済界・企業関係者

- 1935年（昭和10年） 矢野恒太（第一生命社長）
- 1937年（昭和12年） 小林一三（東京電燈社長）
- 1953年（昭和28年） 一万田尚登（日本銀行総裁）
- 1956年（昭和31年） 永田雅一（大映社長）
- 1958年（昭和33年） 石坂肇一（東芝社長・経団連会長）
- 1959年（昭和34年） 足立正（日本商工会議所会頭）
- 1962年（昭和37年） 出光佐三（出光興産社長）
- 1965年（昭和40年） 佐藤喜一郎（三井銀行会長）
- 1967年（昭和42年） 下村治（日本開発銀行理事）
- 1972年（昭和47年） 鹿島守之助（鹿島建設会長）
- 1972年（昭和47年） 井深大（ソニー社長）
- 1972年（昭和47年） 大屋晋三（帝人社長）
- 1983年（昭和58年） 宇佐美洵（前日本銀行総裁）
- 1983年（昭和58年） 水上達三（日本貿易会会長）
- 1992年（平成4年） 中山素平（国際大学理事長）
- 1992年（平成4年） 速水優（日商岩井会長）
- 1994年（平成6年） 飯田亮（セコム会長）
- 1998年（平成10年） 寺島実郎
- 1999年（平成11年） 三井物産業務部総合情報室長
- 2004年（平成16年） 永野健（元日経連会長）
- 吉崎達彦
- （双日総合研究所主任エコノミスト）

政治家・政府関係者

- 1937年（昭和12年） 鳩山一郎（政友会代行委員）
- 1938年（昭和13年） 芦田均（衆議院議員）
- 1939年（昭和14年） 吉田茂（元内閣書記官長）
- 1942年（昭和17年） 平尾訖三郎（文部大臣）
- 1947年（昭和22年） 佐藤尚武（元駐ソ大使、元外務大臣）
- 1953年（昭和28年） 石井光次郎（元商工大臣）
- 1953年（昭和28年） 岸信介（衆議院議員）
- 1954年（昭和29年） 西尾末広（衆議院議員）
- 1954年（昭和29年） 石橋湛山（衆議院議員）
- 1955年（昭和30年） 堤康次郎（衆議院議長）
- 1955年（昭和30年） 緒方竹虎（自由民主党総裁）
- 1957年（昭和32年） 野坂参三（共産党議長）
- 1957年（昭和32年） 池田勇人（前大蔵大臣）
- 1958年（昭和33年） 片山哲（社会党訪ソ団長）
- 1958年（昭和33年） 福田赳夫
- 1960年（昭和35年） （自由民主党政務調査会会長）
- 1961年（昭和36年） 大平正芳（内閣官房長官）
- 1961年（昭和36年） 江田三郎（日本社会党書記長）
- 1963年（昭和38年） 小阪善太郎（前外務大臣）
- 佐藤栄作（元通産大臣）

こともあった。時局は危機に面し、政治家も軍人もその他要路の人々は重要な問題に悩んでいる折柄、(中略)この会が高い価値のものとなったのは当然である」

それはこの草創期に講師として招かれた人物を見ても明らかだ。第1回は1934年3月に開催された。貴族院議員で大蔵、文部大臣を歴任した勝田主計が招かれた。4月は大井成元陸軍大将、5月は深井英五日銀副総裁と、政財界や軍の要人が講壇に立った。

中断と再開

発足から順調に会を重ねていった水霜談話会は戦時中に中断する。1941年まではほぼ毎月開催されていたが、1942年に入って、不定期開催となる。1942年、1943年は4回、1944年は1回、1945年はゼロ。戦後の再開は1946年11月である。

戦禍が日本国内にも及び如水会館も接収され、活動もままならない時代、そして、戦後の混乱期には、残念ながら会の活動も自粛を余儀なくされるが、それでも、1944年1月までは続いており、会員の国に行く末を案じる意識は極めて高く、これこそ、日本の経済界を牽引してきた両校の面目躍如たる所以である。

戦後、講演会自体の再開は迅速に成される。1946年11月に再開、1948年10月まではほぼ毎月開かれていた。その後、1953年3月まで空白期間がある。この中断理由は不明だが、1953年には復興談話会として、一万田尚登日本銀行総裁、

芦田均、岸信介など、政財界の精鋭が講師として招かれている。

この後は2006年まで毎月1回の会を持ち、翌2007年からは隔月開催として続いている。1954年以降は講演会だけでなく、見学会(工場、資料館、博物館など)や旅行忘年会など、イベントの中身もバラエティに富み、会員同士の懇親を図っている。

例会講演会の講師は、学界研究者からは歴代の一橋、神戸両大学学長、如水会理事長および両校教授陣が主であるが、下記の通

三商大交流の一つとしての発展を目指す



神田芳雄氏



川崎忠一氏

現役幹事の神田芳雄さん(1966年一橋大学法学部卒)と代表を務める川崎忠一さん(1963年一橋大学法学部卒)に水霜談話会の現状についてお話を伺った。

現在の会員構成を教えてください。

神田 一橋・如水会メンバーが26人、神戸・凌霄会が36人の計62人です。一番若い会員で1980年(昭和55年)卒業ですから、年齢層はかなり高いですね。

入会動機はどのようなものが多いですか。

神田 新規会員獲得のため、如水会会報に毎回活動レポートを掲載しているのですが、会報を読む人は限られていますので、なか

り、時代を切り拓く著名学者も数多く講演している。政界からは総理大臣経験者だけでも吉田茂、片山哲、鳩山一郎、石橋湛山、岸信介、池田勇人、福田赳夫、大平正芳、宇野宗佑など10人以上。共産党議長長の野坂参三などは一橋、神戸両大学のバランス感覚によるものである。

経済界からは、日銀総裁のほか、日本の代表的な経営者はほぼ招かれている。また、政治経済のみならず、文学、芸能、芸術各界からも大勢の著名人が名を連ねる。

なかOB・OG全員に会の情報を届けることは難しい状況です。

川崎 私自身もそうですが、知り合いの会員に誘われて入会する人がもともと多いですね。同窓生といっても面識のない人に声を掛けることはあまりないです。

今の水霜談話会のもっとも大切な役割というのはどのようなものですか。

神田 ご紹介したように水霜談話会は各界の著名人の講演を聞き、その後、自由な意見交換をし、食事会などで親睦を図ります。まず、とても身近に著名人と知り合うことができます。その人たちの講演を聞くことも大事なのですが、何より講師の人たちとじかに話ができることに意義があります。

川崎 同じ大学の同窓生といっても参加している人の職業はばらばらですから、異業種交流としても役立ちます。会員との関係性を深めることで新たなビジネスチャンスも増えます。会員のみならず、その会員の知

1968年(昭和43年) 藤山愛一郎(自民党代議士)
1969年(昭和44年) 宮沢喜一(前経済企画庁長官)
1981年(昭和56年) 宇野宗佑(衆議院議員)
1989年(平成元年) 高市早苗(経済同友会政策委員)
2002年(平成14年) 平沢勝栄(衆議院議員)
2005年(平成17年) 直嶋正行(衆議院議員)

研究者
1955年(昭和30年) 阿倍能成(学習院大学院長)
都留重人(一橋大学経済研究所所長)
大河内一男(東京大学経済学部部長)
1965年(昭和40年) 高垣寅次郎(一橋大学名誉教授)
1969年(昭和44年) 桑原武夫(京都大学名誉教授)
1970年(昭和45年) 横田喜三郎(前最高裁判所長官)
篠原三代平(経済企画庁経済研究所所長)

1973年(昭和48年) 伊東光晴(法政大学教授)
1984年(昭和59年) 宇沢弘文(東京大学教授)
1989年(平成元年) 新野幸次郎(神戸大学教授)
1990年(平成2年) 野中郁次郎(一橋大学教授)
1990年(平成2年) 宮崎義一(京都大学名誉教授)
1993年(平成5年) 野口悠紀雄(一橋大学教授)
1995年(平成7年) 五百旗頭真(神戸大学教授)
1995年(平成7年) 竹中平蔵(慶応大学助教授)
1999年(平成11年) 加護野忠男(神戸大学経営学研究所長)
2001年(平成13年) 大田弘子(政策研究大学院大学助教授)

2011年(平成23年) 谷本寛治(一橋大学大学院教授)

その他著名人

1937年(昭和12年) 菊池寛(作家)
1940年(昭和15年) 高橋亀吉(物価調整委員)
1956年(昭和31年) 安岡正篤(全国師友会会長)
1959年(昭和34年) 広津和郎(作家)
1961年(昭和36年) 市川猿之助(日本俳優協会会長)
鈴木大拙(文学博士)
1965年(昭和40年) 大田薫(総評議長)
1968年(昭和43年) 茅誠司(日本学術振興会会長)
1973年(昭和48年) 城山三郎(作家)
1988年(昭和63年) 高原須美子(経済評論家)
1998年(平成10年) 半藤一利(文藝春秋社元専務)
2003年(平成15年) 関野吉晴(武蔵野美術大学教授探検家)
藤原作弥(エッセイスト元日本銀行副総裁)
2010年(平成22年) 山中毅(元オリンピック競泳日本代表選手)

り合いや企業関係者など、一つひとつのつながりがとてもレベルの高いところで実現していきます。こういう機会はなかなか得られません。

——若い会員で1980年(昭和55年)卒、ということはどういう50歳を超えています。

神田 30代後半から40代、このあたりが社会で最も重要な働きをする世代ですから、そういった世代にこそ、この会に参加してもらいたいですね。しかし、その世代はとも忙しい。日々仕事に追われています。なかなか勉強会まで頭が回らないでしょうね。少し余裕ができてくる50代から定年世代がやはり中心になりますね。

川崎 30代、40代の人たちがここに来れば、最先端の話が聞け、いろいろな先輩にも出会えます。ビジネスに直結するヒントが迎へる一面にあります。ぜひ、それを拾いに来てほしいです。

——講演会以外の活動はどのようなものがありますか。

川崎 忘年会は定例ですが、それとは別に工場見学会や小旅行なども年1回程度開催しています。1953年(昭和28年)の会再開の翌年から途切れることなく続いています。

神田 昭和30年代は、キリンビールや富士フィルム、日清製粉など製造現場の見学が多かったようですが、昭和40年代、昭和50年代と現代に向かって、毎日新聞社やNHKなど、製造業以外の企業の見学も増えています。これも時代の流れでしょう。また、一橋大学、神戸大学のOB・OGがだいたいどの企業でも重要な役職に就いていますので、日程を決めるのも容易です。

——今後はどのように活動を広げていく予定でしょうか。

川崎 三商大交流が現役世代からたくさんクラブ活動やゼミナールで続いているが、水霜談話会も大阪市立大学のOB・OGに参加を働きかけたいと考えています。

神田 昨年3月例会の講師は一橋大学大学院商学研究科の谷本寛治教授でした。谷本教授は1997年(平成9年)から一橋大学で教鞭を執られているのですが、教授は水霜談話会をご存じなかった。こんな集まりを、なぜ、もっと広報しないのかと仰っていました。

谷本先生は大阪市立大学を出て、神戸大学の大学院で博士となり、今は一橋大学の教授。三商大の申し子のような方です。ぜひ、水霜談話会を大阪市立大学にも広げていただきたいと今お願いしているところで。当会が三商大の同窓会交流団体として活動することで、今以上に三つの大学の交流も深くなり、それぞれが発展していくための一助となっていけたらと考えています。

水霜談話会

- 会員/如水会26人、凌霜会36人、合計62人(2012年1月現在)
- 例会/奇数月に講演会・見学会実施。5月例会時に総会開催。12月は忘年会。
- 年会費/6000円。講演会参加費5000円。
- 入会手続/希望者は経歴書を添えて幹事宛に申し込んでください。例会ごとに開催される幹事会にて入会が決定されます。
- 申し込み先/当期事務幹事 神田芳雄
〈幹事は如水会と凌霜会で2交代制〉
TEL/FAX 047-359-4342
E-mail ykanda@icnet.ne.jp

三商大の伝統「水霜談話会」

凌霜会の会員



如水会の会員



【出所】『水霜談話会のあゆみ』(如水会事務局内 水霜談話会/刊 1992年発行)

大学長

1935年(昭和10年)	三浦新七 (東京商科大学教授、のち学長)
1947年(昭和22年)	上原専禄(東京商科大学学長)
1953年(昭和28年)	中山伊知郎(一橋大学学長)
1958年(昭和33年)	井藤半弥(一橋大学学長)
1959年(昭和34年)	藤山政道(お茶の水女子大学学長)
1960年(昭和35年)	山中篤太郎(一橋大学学長)
1964年(昭和39年)	増田四郎(一橋大学学長)
1967年(昭和42年)	八木弘(神戸大学学長)
1971年(昭和46年)	猪木正道(防衛大学校長)
1978年(昭和53年)	菱沼謙一(一橋大学学長)
1981年(昭和56年)	向坊隆(東京大学総長)
1984年(昭和59年)	宮沢健一(一橋大学学長)
1990年(平成2年)	種瀬茂(一橋大学学長)
1993年(平成5年)	塩野谷祐一(一橋大学学長)
1994年(平成6年)	西澤潤一(東北大学総長)
1996年(平成8年)	阿部謹也(一橋大学学長)
1998年(平成10年)	吉川弘之(東京大学総長)
1999年(平成11年)	西塚泰美(神戸大学学長)
2001年(平成13年)	蓮実重彦(東京大学総長)
2002年(平成14年)	中嶋嶺雄(東京外語大学学長)
2003年(平成15年)	野上智行(神戸大学学長)
2004年(平成16年)	佐々木毅(東京大学総長)
2005年(平成17年)	石弘光 (一橋大学経済学部教授、のち学長)
2007年(平成19年)	杉山武彦(一橋大学学長)
2009年(平成21年)	渡邊利夫(拓殖大学学長)
2010年(平成22年)	五百旗頭真(防衛大学校長)
2012年(平成24年)	福田秀樹(神戸大学学長)
2012年(平成24年)	山内進(一橋大学学長)
1955年(昭和30年)	同窓会理事長
1972年(昭和47年)	村田省三(如水会理事長)
1974年(昭和49年)	竹村吉衛門(如水会理事長)
1977年(昭和52年)	高橋朝次郎(如水会理事長)
1981年(昭和56年)	茂木啓三郎(如水会理事長)
1989年(平成元年)	川又克二(如水会理事長)
1994年(平成6年)	鈴木永二(如水会理事長)
1997年(平成9年)	齊藤裕(如水会理事長)
2006年(平成18年)	伊藤助成(如水会理事長)
2007年(平成19年)	江頭邦雄(如水会理事長)
2007年(平成19年)	新野幸次郎 (凌霜会理事長、元神戸大学学長)

水霜談話会事務幹事

神田芳雄(昭和41年法学部卒) 記